## 経皮吸収型製剤の適正使用に貢献した例

プレアボイドとは薬学的ケアから患者の不利益(副作用、相互作用、治療効果不十分など)を回避 あるいは軽減した事例を意味します。今回は、経皮吸収型製剤の減量方法等に関して情報提供を行 い、適正使用に貢献できたプレアボイドを紹介いたします。

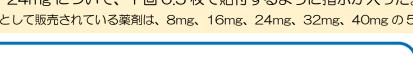
## 患者背景

▶原疾患の治療目的で入院された患者

【持参薬(一部抜粋)】 ハルロピテープ 24mg 1回1枚、24時間ごとに貼付

入院後より減量の方針となり、

ハルロピテープ 24mg について、1 回 0.5 枚で貼付するように指示が入った。 ※ハルロピテープとして販売されている薬剤は、8mg、16mg、24mg、32mg、40mg の 5 規格



ハルロピテープが減量になっているが、0.5 枚で貼付する指示が出て いる。添付文書に減量が必要な場合は漸減するように記載されてい るが、具体的な漸減方法の記載はない。

0.5 枚で貼付した情報があるかも含めて、製薬企業に確認しよう。

## 製薬企業に確認後

Cさんのハルロピテープについて相談があります。 ハルロピテープ 24mg を 0.5 枚で貼付する指示が出ております。 製薬企業に確認したところ、ハルロピテープを切断したり、半面の

み貼付した際のデータはなく、承認された用法でないため推奨しな いとのことでした。

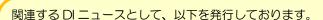
また、減量時に漸減が必要な薬剤ですが、漸減方法に規定はない ようです。参考情報として、臨床試験では1日ごとに8mg ずつ減量 した事例があるとのことです。

ハルロピテープ 16mg への変更はいかがでしょうか。

確認ありがとうございます。ハルロピテープ 16mg に変更します。

その後、ハルロピテープ 16mg、1 回 1 枚に処方が変更となった。 また、その2日後にはハルロピテープ8mg、1回1枚に変更となった。 減量に関連する有害事象の発現なく経過し、8mg で継続して退院となった。 経皮吸収型製剤の減量方法等に関して情報提供を行い、適正使用に貢献できた。

参考文献:添付文書、メーカー回答



① DIニュース 2023 年 4 月 2 号 投与中止時に漸減が必要な当院採用の薬剤

2/1/5

医師

② DIニュース 2025 年9月1号 当院採用の経皮吸収型製剤一覧 ver2.0









